

美濃の最初の登り窯：元屋敷

元屋敷窯は美濃で最初に作られた3つの登窯であり、本州で最初に築かれた登窯の一つでもある。日本で最初の登窯は、九州の唐津に作られた。新しい窯の技術は、唐津に近い朝鮮半島を経由して中国からもたらされるのが一般的であった。製陶者は企業秘密を守るのが普通だが、美濃の土岐の大名の親戚が唐津にいたため、美濃の名門窯元の一人が唐津に弟子入りすることができた。1605年には、その弟子である加藤景延（生年不詳-1632）が帰郷し、土岐で最初の登窯を築いたことが記録に残っている。その窯跡は現在、織部の里公園内の元屋敷と呼ばれる場所にある。

1958年、元屋敷窯の一つが発掘され、14の部屋と24メートル以上の長さがあることがわかった。美濃最古の登窯があるだけでなく、出土品から織部の発祥の地である可能性も指摘されている。元屋敷窯は、1967年に国の史跡に指定され、出土品の多くは国宝や重要文化財に指定されている。